

11 教員組織

進捗状況報告

任期制実務家教員は、A～Dの採用形態があるが、開設後2006年度から2007年度にかけて、任期制実務家教員Cで雇用している教員を両専攻とも、Dの任用に変更し、また、新たに雇用する場合も任期制実務家教員Dで採用した。その結果、少ない人事枠で、優れた実務家教員を数多く雇用することができた。この面では成果を挙げているといえるが、A～Cの教員がいなく、Dの教員が多いのは、担当科目数が少ないため、任期制実務家教員がほとんど非常勤講師に近い状況になっており、専任教員として位置づけていることから言えば、研究科の専任教員としての意識付けをどのように図っていくかが課題である。またA～Cの教員の採用計画について今後どのように考えていくかも課題である。

学内第三者評価

開設時に設定された目標の「より効果的な教員の配置」について、採用形態などの工夫によって成果が出ていることは評価できる。ただ、進捗状況報告にもあるように任期制実務家教員のファカルティ・メンバーとしての意識の不足があるとすれば、今後その具体的解決策が求められる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・任期制実務家教員に対する情報共有の場の設定、研修などの対策が必要と考えられ、それらの対策の検討、実行が期待される。